

# 見えない危険

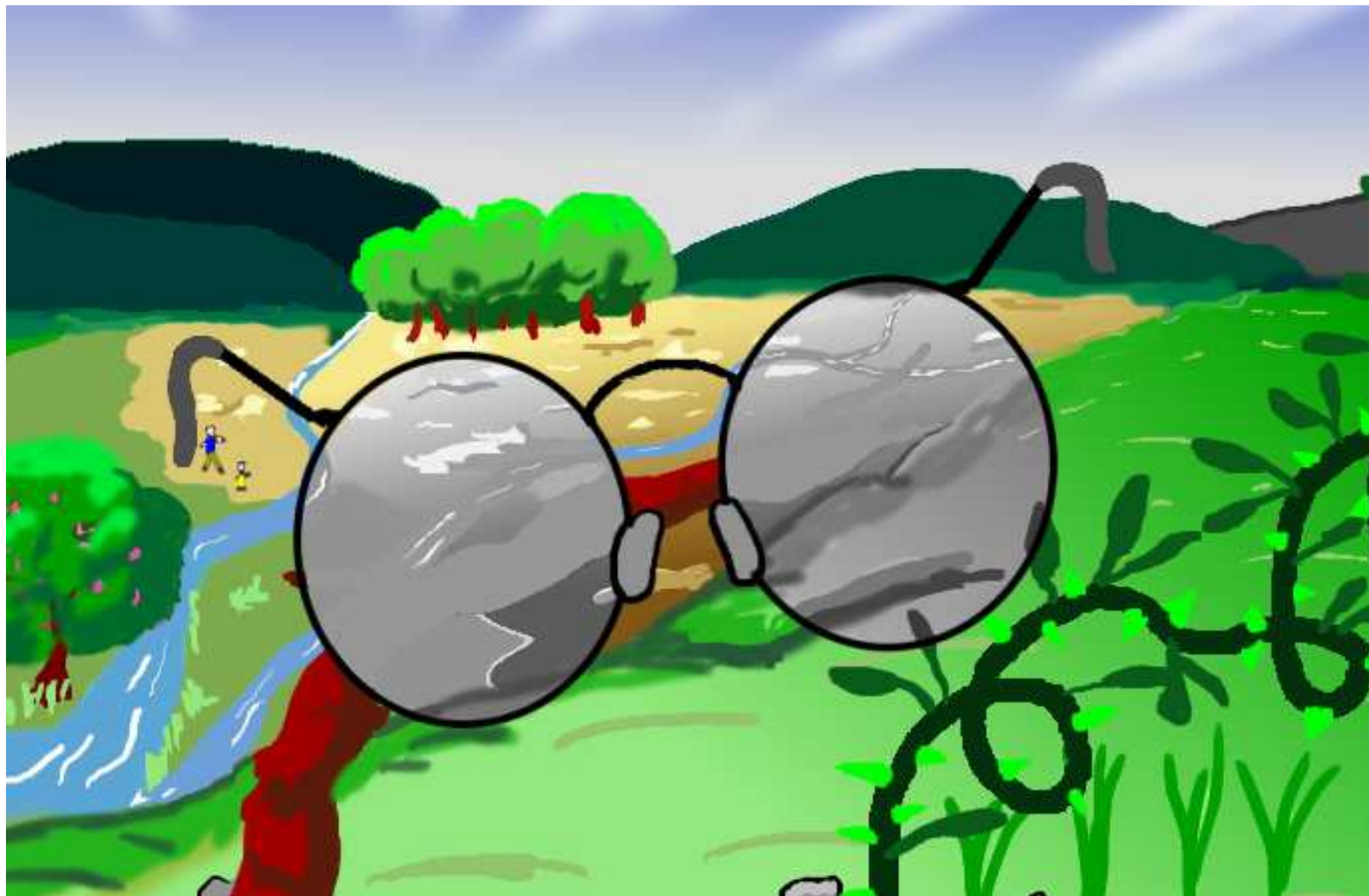


東郷 潤

筆者注；

この絵本は心理的な錯覚、特に善悪中毒をテーマとするもので、色覚異常(色覚特性)について描くものではありません。

あるところに、いつもメガネを外さない女性がいました。…彼女のメガネは全ての色を白黒にしてしまう、魔法のメガネです。



歩いていると、突然、何かにぶつかりました。



木の枝があったのですね！



茶色い木の枝は、色を失うメガネのせいで、時々、見えにくいことがあるのです。



今度は突然、足に激しい痛みを感じました。



トゲに刺されたのですね。



緑のトゲは、色を失うメガネのせいで、たまに見えにくいことがあるようです。

突然、何かに落ちこみました。



川が流れていたのですね。



青い水は、色を失うメガネのせいで、時折、見えにくいことがあるのです。



今度は、何かやわらかいものを踏みました。



子どもが遊んでいたのですね。



子供の姿は、色を失うメガネのせいで、時折、見えにくいことがあるようです。

今度は、男の人が殴りかかってきました。



突然、襲われるなんて、なんて恐ろしい世界でしょう！



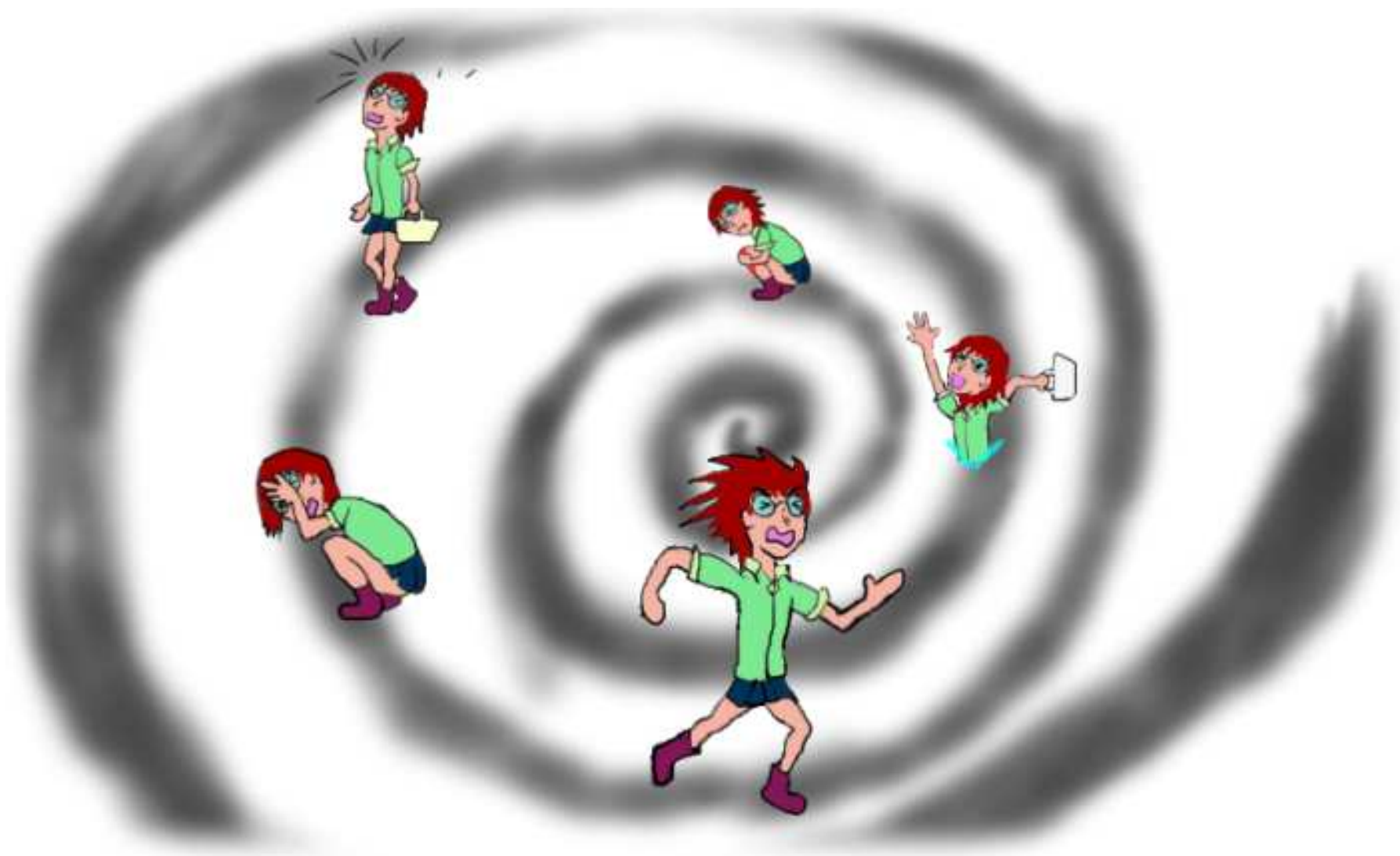
子どもを踏まれた親が、怒っていたのですね。



他人の気持ちは、色を失うメガネのせいで、彼女には分かりづらいことがあるようです。



こんな風に彼女の人生は、辛いことの繰り返しです。



でも、彼女にその理由は分かりません。色を失うメガネのせいで、何がどうなっているのか、さっぱり理解できないのです。

彼女は、今日も怯えています。



## あとがき —絵本「見えない危険」

絵本「見えない危険」は、人々の誤解・争いの原因となる、善悪で錯覚する心理をテーマとしたものです。

善悪という考え方／言葉は、本当に様々な錯覚を生み出します。そして、それらの錯覚は恐ろしい悲劇を育む土壌となり、結果的に、億単位の人々が犠牲になっています(詳細は、下記WEBの絵本集、 弊著「善悪中毒」・「原爆への復讐」をご参照ください)。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です(商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます)。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

**[www.j15.org](http://www.j15.org)**